

# 治山事業で行う

## 防火施設の概要と今後の活用方法

白田・南牧森林事務所 ○今村正之  
経営課 治山係 油井袈裟男

### 要旨

森林を基調としたレクリエーション志向の増加する中で、林野火災の危険性の高い集落周辺地域の国有林において、国有林防火対策総合事業を導入して、貯水ダムと併用した治山事業を当署南牧森林事務所管内で実施した。

### はじめに

経済・社会の発展に伴い、国民の余暇ニーズも多様化し、森林を基調としたレクリエーション活動への志向も年々増加する傾向にある。

こうした情勢を背景に、春、秋の行楽シーズンを始め、年間を通じたレクリエーションのための入込み者の増加傾向から、たき火やタバコの火の不始末等による林野火災の発生の危険性が高まる一方で、国土開発の進展により山間部への住宅の建設も進んでおり、森林と住宅が密接する地域も増加する傾向が見られる。

このため、林野火災の発生の危険性の高い集落周辺地域の国有林において、平成4年度から新たに国有林防火対策総合事業が導入され、長野営林局管内では当署がこの事業をハヶ岳連峰の横岳を源流とした袖添川の上流に位置する箇所を対象地として計画し実施した。

また、この設置施設を単に地域総合防火対策事業の目的に使用するだけでなく、「山火事防止の啓蒙、森林、林業、自然環境等を理解させPRする場」としても利用できないだろうかと考え地域総合防火対策事業実施経過と合わせ発表する。

### 1. 入り込み者の動向

近年南牧村はハヶ岳を中心とする美しい自然環境に恵まれ、また首都圏からのアクセス条件のよいことなどから、ハヶ岳山麓でも別荘開発を主体とした観光開発が始まり、清里地区にペンションが登場すると、若者層を中心に爆発的な人気を集め開発が進められましたが、最近では滞在型の

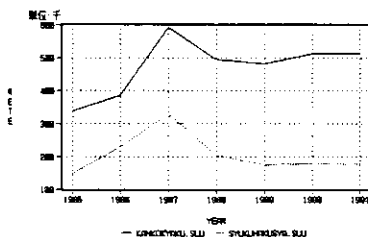


図-1 観光客の推移

利用が促進され、またリゾート法の制定などとも相まって、スキー場・ゴルフ場・音楽堂美術館など様々な施設の建設が進み、多様性のある観光地として変貌つつあり、村内への入り込み客は、年間60万人に達している。(図-1)

当事業地は、南八ヶ岳林道が横断しており、ゲートはあるもののオフロードバイクで通過して行く者も多く、別荘の所有者・登山者・釣り客・バイクツーリングなど、性質の異なる入り込み者が多数あることから、人為的に引き起こされる森林火災の危険度はかなり高くなっている。

## 2. 森林火災の発生原因

わが国における森林火災の発生原因は、図-2のように焚火やタバコの投げ捨て、火遊びなど人為によって引き起こされたものが多く、全件数のおよそ7割を占めている。

最近、カリフォルニア・オーストラリアで山火事が発生して大面積の森林や民家・別荘が焼失しましたがこの火災も自然発火とは別に放火による人為的な発生原因もあったと聞いている。

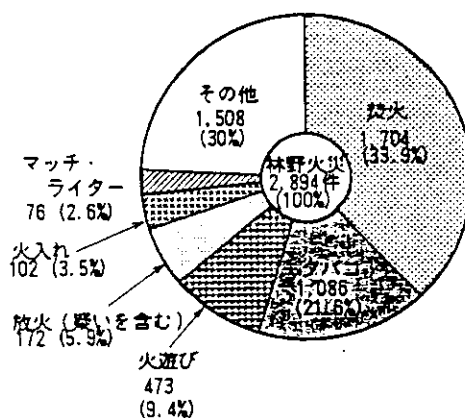


図-2 森林火災発生原因

## 3. 地域総合防火対策治山事業の目的

このようななか地域総合防火対策治山事業の目的は、林野火災の発生の危険性の高い集落周辺地域に位置する国有林において、山火事の発生の予防、早期発見、早期消火を図ると共に山火事の拡大を防止するため、

- (1) 防火管理車道、防火管理歩道の整備
- (2) 防火用貯水ダム、防火監視施設、標識類、ヘリポート等の施設を3箇年計画で設置すること
- (3) 防火性の高い森林の造成、整備を図ることなどを目的とする事業である。

## 4. 防火施設の概要

今回の事業地は、当署の南牧森林事務所管内の八ヶ岳連峰、横岳(2,825m)を源流とした杉添川の上流部に位置し、横岳への登山ルートになっているほか、西洋環境開発KKの別荘団地に隣接する72・73林班80.30haを対象としている。

この別荘地帯は700HAの敷地に1,600区画のスペースをもち、そのうち約1,000区画に関東方面の人が主体に入居しており、春～秋の週末には沢山の入込み者がある。

南牧村の総世帯数は、1,005戸3,561人(H6.1.1現在)であるのに対し、西洋環境開発の別荘は約1,000戸と村の世帯数と同程度となっているのは、東京方面からは中央高速を使って約3時間の近距離にあること、また、気候、景観的な面で別荘地として適しており、隣には第2の軽井沢ともいべき清里高原のリゾート地帯を控えた地の利がこれだけ発展させている要因になっていると思われる。

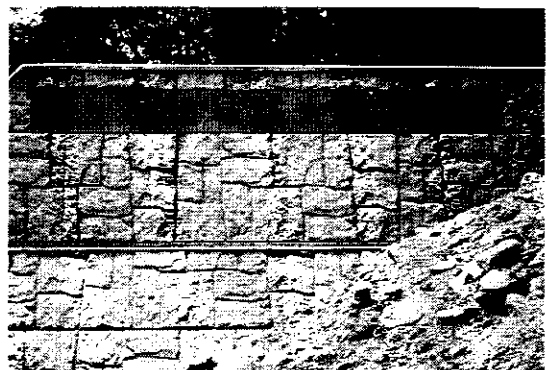
#### 5. 地域総合防火対策事業の実施経過

事業の初年度となった平成4年度は、防火用貯水ダム(写真-1)と民有林境に防火歩道を設置した。

防火用貯水ダムはスリットダムで流れ木を止めたり、火災危険期である春と秋は貯水ダムとして使用し、夏はセキ板を外すことによって貯水量を低くし、川と親しむことができる環境にすることを狙いとして作設しました。スリットダムの正面はモールドスターを使用し、周囲の環境に馴染みやすい工夫をした。(写真-2)



写-1 防火用貯水ダム



写-2 モールドスター

計画2年目にあたる、平成5年度は防火管理車道及びヘリポートを完成させた。

最終年度は管理棟・総合案内板等の施設を作設し、総合的に完成する計画をした。

また有事の際この地に行くためには、山梨県境である野辺山方面からは、大きく迂回している南八ヶ岳林道を利用する方法しかないところではありますが、短時間で到着できる道路の作設の必要性を感じ西洋環境開発と折衝の結果、同社とタイアップして、作業道が設置できる見通しとなった。

## 6. 今後の活用方法

この施設を山火事発生の予防、早期発見、早期消火また山火事の拡大を防止する目的で利用していく事は無論のことではありますが、この別荘地の中には神



写-3 森林教室

奈川県藤沢市、東京都荒川区等の野外体験教室、野外キャンプ場などの施設があり、春から秋にかけて都市部の子供達が林間学校として利用していることから、森林教室を通じて森林の重要性をPRする機会と考え、昨年から森林教室の実施を働きかけてきたところ、是非実行してほしいとの要請を受け、今まで行ってきた埼玉県志木市に加え今年度から新たに森林教室を、受託事業として、8回程度

実施して来たところである。施設を有する自治体側からは大自然と触れ合う中での森林教室を求める声が強い。

また、昨年実施した、森林・林業に対する意識調査でも、都市近郊・地元の親ともに、森林・林業・自然環境を理解させるには、「自然に触れさせ学習させる」がもっとも多かったことから、将来的にはこの施設・森林空間を利用した森林教室を行うことが効果的と考えられる。また、作業道の作設に



写-4 森林教室

伴って、別荘地帯とこの施設の交通の便が整い、人が集まりやすい環境になるため、一般の人々等にも、山火事防止の啓蒙や森林・治山事業の重要性を、掲示板等によりPR活動を実施したいと考えています。さらに、この貯水ダムの水位を下げて魚のつかみ取りをするなど、川と親しむことができる施設としても利用を図りイベントを実行することによつて、児童や先生一般の人々の口から都市部の人達にこのことが伝わり、更に理解と協力が得られることを目的に署を挙げて取り組んでいきたいと考えている。

地球的規模で環境問題が取り沙汰されている今日、環境問題に森林の果たす重要性を話しながら、国有林への理解と協力を深めてもらう一助になればと考える。